

次世代地域福祉活動者育成事業「ウェルクラブ」

大谷小6年生

ふれあいネッドワークを体験



この夏、大谷第二地区社協(笹井昭三会長)では、子どもたちに「ふれあいネッドワーク事業」を体験してもらい、次世代の地域福祉活動者を育てることを目的に「次世代地域福祉活動者『ウェルクラブ』」活動を実施しました。

大谷第二地区社協の「ウェルクラブ」活動は、2年目をむかえた今年度、大谷小学校(守田孝子校長)の6年生全員73名が参加しました。

この活動は、各地区社協で行われている援助を必要とする世帯を福祉協力員(ボランティア)が訪問し、見守りと支え合

いを行う「ふれあいネッドワーク事業」の一環として行われたものです。第1回目の見守り活動日は、8月18日。子どもたちは、2、3人に分かれ福祉協力員と共に猛暑の中、高齢者のお宅へ見守り活動に出発しました。91歳の一人暮らしの女性を訪問した深町さん、

杉田さん、壁村さんは、「お友だちは遊びに来ますか?」と用意した質問をしました。大きな声が出なくてちょっ

と苦労しましたが、「もう友だちは遊びに来ないけど、デイサービスに行くのとたくさんお友だちに会えて楽しいよ」という答えにうれしそうでした。

子どもたちは、

高齢者にとって山坂の多い大谷地区では友達との行き来も簡単ではないこと、そのためデイサービスや福祉協力員の訪問が楽しみになっていることを実感したようです。大谷第二地区社協笹井会長は「昨年は小学生の参加が11名でしたが、今年度は小学校のご協力で6年生全員に参加してもらいました。多くの子どもたちにボランティア活動を体験してもらい大変よかったです」と話してくれました。



見守り活動を体験する小学生

「とばた社協だより」掲載
平成17年9月15日(第51号)
大谷第二地区社会福祉協議会